

ふるさと探訪

第56回 兼久（かねき）大池



松山藩の代官記録によると
延長2860m、幅・深さ
2mの掘割水路を中山川から
引き込み、約70万³mの貯水が
可能な兼久大池が造られたの
は、寛政3（1791）年の
ことで、1年半を要した大工
事であったとされています。
施工前には中山川との水位



▲遊歩道などが整備されています

の高低をめぐって反対意見も
ありましたが、来見町庄屋越
智喜三左衛門が工事の必要性
を強く説き、夜間に提灯を配
列し高低を調査するなどして
池の造成が決定されました。

兼久大池の完成に伴い潤っ
た水田は、五百町歩とも八百
町歩ともいわれ、農民の素朴
な感謝の気持ちは、民謡に
「娘おやりな田野丹原へ、死
ぬる末期の水もない」と歌わ
れていたものが、「田野は田
所米所、嫁にやるなら丹原田
野へ」と変わったと伝えられ
ています。

現在は、親水公園として遊
歩道や駐車場も整備され、池

の周囲に桜が咲くころには、
多くの人が訪れています。



▲昔と同じように静かに水を湛えています

■場所 丹原町高松甲748
■駐車場 あり

